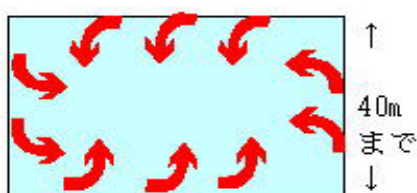


水中拡散性に優れる水田除草剤「イマズスルフロン・カフェンストロール・ダイムロン粒剤」の省力散布法

「イマズスルフロン・カフェンストロール・ダイムロン粒剤（クラッシュ1キロ粒剤）」は、平成10年度から水田初・中期一発処理剤として県防除基準に掲載されているが、通常の1キロ剤とは異なり、水中拡散性に優れる性質を持つ。この性質を利用して、圃場周囲の畦畔から額縁状に散布する「湛水周縁散布法」が可能である。

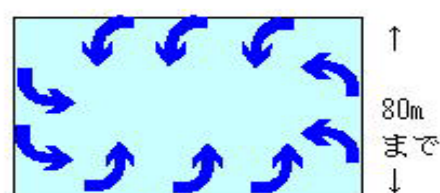
湛水周縁散布法

短辺が40mまでの圃場



圃場周囲の畦畔から手散布または袋からの直接散布が可能。圃場の中に入る必要はない。

短辺が80mまでの圃場

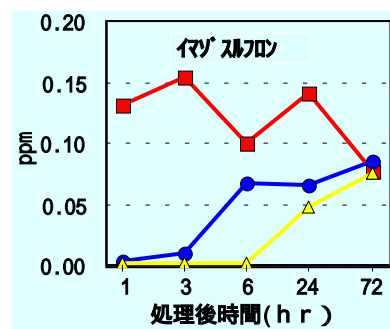
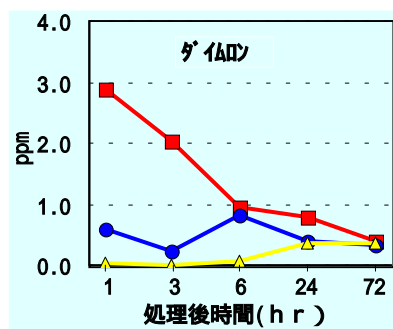
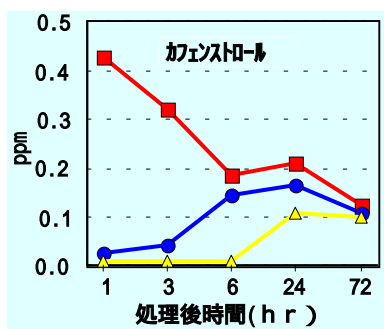


圃場周囲の畦畔から背負い式動力散布機を使用し、できるだけ遠くへ散布。圃場内に入る必要はない。

注) 短辺が80mを越える圃場の場合は、の背負い式動力散布機を使用した圃場周囲の畦畔からの周辺散布に加え、圃場内部分からの散布を組み合わせる。

表1 使用基準

区分	処理法	使用時期	使用量	適用土壌・地帯	適用草種
水稻 移植	湛水散布または 湛水周縁散布	移植後7～12日 (北I2.0葉期迄)	1kg/10a	全県、壤土～埴土 減水深2cm/日以下	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ ミスガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、クログワイ、 オモダカ



凡例 - - : 畦畔から10m地点(薬剤投下地点、4カ所平均) - - : 畦畔から30m地点(4カ所平均) - - : 圃場中央部

注. 散布方法: 背負い式動力散布機による湛水周縁散布、散布幅: 10～13m、有効成分の分析: 各原体メカ、分析方法: HPLC法(島津製作所製)

図1 湛水周縁散布における有効成分の水中濃度分布の時間推移 (H9、花巻市1.1ha圃場)